

## ■ 巻頭言

### 「今、特別支援教育の現状と課題を踏まえた研修を」

筑波大学

藤原 義博

制度化され5年目となった特別支援教育は、教育現場の体制も取り組みも進捗しつつある一方で、多くの課題も抱えています。

例えば、全国の知的障害特別支援学校では在籍数が大幅に増え、平成21年度には10万人を超え、200人以上の学校が4割近くになっているようです。その結果、教材教具や校内の普通教室が不足するなど、校内の教育環境が非常に厳しい

状況のようです。在籍者の構成も、従来は対象ではなかった軽度判定者の数が増え、全学部で知的障害のある自閉症の割合が増えています。そこで、教員に対する専門性の担保と自閉症教育の充実が課題となっています。

同様に、特別支援学級や通級指導教室も児童数が増え、これまで以上に担当教員の専門性の向上が課題となっています。こうした中で、東京都教育委員会では、特別支援教育の充実を図るために、3年間の期限とした特別支援教育に意欲と関心のある小中学校教員を特別支援学校へ、特別支援教育の専門性を有した特別支援学校教員を小中学校特別支援学級等に異動させるという「特別支援教育異校種期限付異動」が来年度より実施されることになりました。

当センターでは、こうした現状も踏まえ、今後の特別支援教育の発展に資するために現職教員研修や認定講座やセミナーの充実を図っています。大いにご活用いただきたいと思います。



## ■平成23年度 免許法認定公開講座

筑波大学免許法認定公開講座は、平成16年の特別支援教育研究センター開設を期に、障害科学系、附属特別支援学校との連携のもと、実質上の企画運営を本センターが行って来ました。

今年度は、神保町キャンパスにて6日間2講座を実施し全国からのべ100名ほどの方が受講されました。各講座共に、猛暑の中熱気があふれる講義となりました。障害科学系の先生方をはじめ、ご協力くださった先生方には深く感謝申し上げます。



## ■現職教員研修生の研修日記

本センターでは、高い専門性を持つ教員の養成を目的とし、一定の教育経験を持つ教員等を対象に研修生の受け入れをおこなっています。そこでは、筑波大学附属特別支援学校5校での実習と、本センター及び筑波大学大学院教育研究科特別支援教育専攻での講義・演習を組み合わせた長期研修プログラムを提供しています。

このコーナーでは、研修生の皆さんに日々頑張っていることなどを寄稿して頂きます。

4月から筑波大学特別支援教育研究センターへお世話になり5ヶ月が経ちました。4月当初は環境の変化による戸惑いや現場を離れる不安でいっぱいでしたが、センターの先生方の熱のこもったご指導により毎日充実した研修生活を送ることができ、当初の不安はなくなりました。自分の専門とする聴覚障害教育だけではなく他障害の教育についても学ぶ機会を与えていただき、視野を広げることができました。また、実際に筑波大学の附属特別支援学校を参観させていただき、そこでの先生方の実践から学ぶことも多く、『現場に戻ったらこうしよう。』『こんな取り組みもいいかもしれない。』等、今後の『現場での指導にどう生かしていくか』という視点をもって研修する日々です。特に自分の専門である聴覚障害教育については筑波大学附属聴覚特別支援学校にて実習をさせていただく機会をいただきました。

まだまだ教員としての経験が浅い自分にとってベテランの先生方の指導を実際に見せていただき、時には指導に加わらせていただけることはこれからの自分にとって大きな財産になると思います。今後も研修を積み重ね、たくさんのお土産をもって静岡に戻りたいと思います。



静岡県立静岡聴覚特別支援学校 小林雅樹

## カンボジア日誌

間々田和彦

世界遺産アンコールワットのある国、カンボジア。1970年代中盤の周辺諸国まで巻き込んだ内戦で国土は荒廃しましたが、日本をはじめとする国際協力の中で復興しました。しかしながら内戦によって知識層を中心に多くの命が失われ今なお特に教育面に大きな影を落としています。

大学時代からのカンボジア人の友人の招きで2年前に初めてカンボジアの地に立ち、盲学校などを訪れました。そこで感じたのは物の支援ばかりではなく、日本の特別支援教育のノウハウを伝えることが大きな支援になるということでした。

面接した視覚障害の大学生に、私の支援は10年とか20年というスパンで見てほしい、と伝えました。彼らもそうした支援を求めていると答えてくれました。幸い強力なパートナーが見つかりましたので、ここ数年は現状を把握し、どのような形の支援をおこなうかを考えていきたいと思えます。



### 野村先生の

## 入門スペイン語ミニミニ講座



センターでは、世界各国の研修生への国際協力を行っています。アジアの国々や最近では南米から多数の研修生が来日しており、附属学校への参観訪問でお世話になっています。8月末から9月末まで南米3カ国（ボリビア、エクアドル、パラグアイ）から9名のJICAの研修生が来日しました。また11月には、ボリビアから10名の研修生がやってきます。そこで、スペイン語の入門ミニ講座をお送りします。



ようこそ（話者が男性/女性*）	¡Bienvenida!（ビエンベニード(ダ*)）
おはようございます	Buenos días(ブエノス ディアス)
こんにちは	Buenas tardes (ブエナス タルデス)
こんばんは/おやすみなさい	Buenas noches (ブエナス ノーチェス)
はい/いいえ	Sí / No (シ/ノ)
～お願いします（依頼する時）	～por favor. (ポル ファボール)
すいません（呼びかけ・軽い謝罪）	Perdón(ペルドン)
私の名前は大塚一郎です。	Me llamo Ichiro Otsuka. (メ ジャモ イチロー オオツカ)
さようなら	Adiós (アディオス)
また明日	Hasta mañana (アスタ マニャーナ)
日本(国) Japón (ハポン)	ボリビア(国) Bolivia (ボリビア)
どうもありがとうございます	Muchas gracias(ムチャス グラシアス)





## センター移転のお知らせ

新校舎完成にともない、2011年9月より、本センターも右記の住所へ移転しました。場所は4階です。

電話番号等は変更ありません。

〒112-0012

東京都文京区大塚 3-29-1

TEL03-3942-6923 FAX03-3942-6938

e-mail:snerc@human.tsukuba.ac.jp

URL:<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>



筑波大学重点公開講座

## 大震災に学ぶ障がいの理解と支援

未曾有の大災害となった東日本大震災では障がいのある方も数多く犠牲となりました。被災後の生活でも障がいのない方にもまして、今なお困難の多い生活を余儀なくされています。被災後の生活では、避難所における集団生活や物資の配給などの場面で、健常者と障がいのある方が交流する機会が以前より多くなりました。そうした中で日常生活ではなかなか気がつくことの少ない障がいのある方の生活上のニーズがより明確となったと考えられます。こうした障がい者の発信するニーズを知り、それに具体的に応える支援をとおして、障がいへの理解がさらに深まるのではないのでしょうか。

本講座では、これまでの大震災で被災された障がい者や学校関係者から、被災時における生活体験を語っていただき、地域における障がいのある方の理解とその支援の手がかりを得ることを目的としています。

**日時** 2011年11月27日(日) 13:00~16:00

**場所** 筑波大学東京キャンパス

詳しくは下記のWebをご覧ください。

URL:<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>

